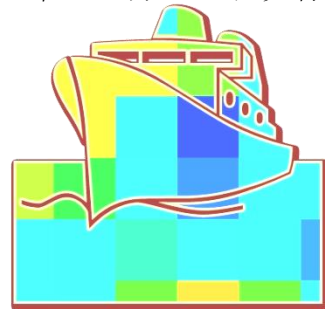


北海道天売高校 連絡船

北海道天売高等学校 学校通信「連絡船」
平成30年 8月31日発行

第4号



オープンスクール ～ようこそ、天売島へ～

7月14日（土）・15日（日）、オープンスクールを実施しました。この行事は、生徒募集の一環として、中学生と保護者に本校そして天売島のことを知ってもらう目的で開催しています。今年は島内外から（島内生3名、札幌市内2名）の中学生5名と保護者3名が参加しました。学校説明会を行った後は在校生による校舎案内や部活動紹介を行い。その後水産実習（ウニ缶詰作り）を体験してもらいました。その後島内一周をした後に夕食をとり、夜は観光バスに乗ってウトウのナイトウォッチングもしてもらい、盛りだくさんの一日目でした。二日目はあいにく、朝から雨が降り悪天候のため、予定を切り上げ、海の宇宙館の見学後、高校で閉会式を実施しました。全てが予定通りに運ばなかったのは残念ですが、2日間の体験を終え、島外の参加者は大変満足した様子で島を後にしました。島内の中学生もウニ缶詰作りは初めてのようでとても楽しそうに参加していました。毎年のことながら、本校は都会の高校のように学校だけではなく、島全体を見ていただくので、実施する上で、島の方々の御協力は欠かせません。島全体で高校を盛り上げていただくことは、島の将来に大きく影響します。多くの島民の方々に多大なご協力をいただき、本当にありがとうございました。



第1回球技大会 ～親睦の和が広がる～



7月18日に第1回球技大会を行いました。生徒が今回の競技に選んだのは「ポートボール」と「ドッジボール」の2種目です。

ポートボールとは、バスケットボールによく似た競技です。バスケットボールとの違いは、台に立った選手がゴールの代わりに行うという点です。最初は皆慣れないルールに戸惑いながらプレーしていたものの、徐々に戦略や作戦が生まれ、白熱した試合となりました。

ドッジボールの得点と

合わせた総合成績ではBチームの勝利となりました。どちらの競技もとても盛り上がり、生徒と職員との親睦が図れた有意義な球技大会となりました。

天売学「天売うにまつり」 ～成功に一役買う～

7月21日（土）・22日（日）に天売島の夏の観光として代表的な「天売うにまつり」が行われ、



その運営の手伝いを天売学として生徒たちが行いました。生徒たちは始まる前から会場の設営や火おこしなどの準備を行うだけではなく、威勢のよい呼び込みをしながら販売を手伝いました。また、観光客が買ったウニの殻を割って食べやすくしたり、使わなくなった容器を回収するなど観光客とコミュニケーションを積極的に取りながら「天売うにまつり」の成功に貢献しました。生徒たちにとっては、改めて天売島の観光の

あり方について考える良い機会となりました。

生活体験発表校内選考会

～空知地区大会への3名の出場者決定～



(左から順に) 地区大会への出場を決めた三浦さん・宮地君・菅原さんの3名(発表順・いずれも3年生)

7月17日(火)に生活体験発表校内選考会を行いました。生活体験発表大会とは、全国の定時制・通信制高校生対象の弁論大会の一つで、今年で62回目を迎えます。島での体験を通して、自分の現在とこれからのについて発表しました。聞き手に何(テーマ)をどう伝えるか(方法・効果)をよく考え、仕上げることは今、教育で求められる能力の一つです。思いを伝えることは簡単な作業ではありません。今、話題の映画「コードブルー」でもテーマになっていますが、人が生きていくうえで努力し続けなくてはならないことかもしれません。緊張感の漂う中、生徒達は練習以上に自分の持てる力を発揮して、みな予想以上に立派な発表となりました。

水産実習③ ウニ缶詰づくり

～天売島の名産品加工に挑戦～

7月9・23日でウニ缶詰実習が行われました。材料は実習日の朝に水揚げされた天売のキタムラサキウニです。作業は、まずマキリを使ってウニの殻を割り、ウニむき専用の器具を用いて身を取り出し、付着している内臓やトゲなどを除去します。その後、ウニの身を秤で重さを量りながら缶に肉詰めし、製缶機で巻き締め密封した後、



ボイラー・レトルト設備で加圧殺菌しました。身崩れ防止のための添加物等は一切使っていません。2・3年生は手際よくウニむきを行い、1年生は初めての作業にもかかわらず丁寧に取り組んでいました。天売の美味しいウニをそのまま味わうことができるウニ缶詰は9月の天高祭でお披露目できる予定です。

前期読書週間

～本を読んで、自己を高める～

7月9日(月)～13日(金)に掛けて、SHR後から授業開始前の20分間、読書を行いました。本校は生徒に加え、校長先生を含め教員も一緒に教室で読書を行います。今年度は読書週間中に1回ウニ缶詰実習が入りましたが、普段読書の時間が取れない人も、よく本を読む人も読書に親しむことができました。読書週間後のアンケートでは、読書週間があるので、本を読むよききっかけになったという感想もありました。



読書週間を終え、生徒が書いた読書週間で読んだ本の感想文・紹介文を掲載します。



書名：ネコミミアークイブ 著者名：保坂 歩

もともとボーカロイドの曲で、そこから小説になった本です。

昔と現在がまざったような場所が舞台になっていて、主人公の医者が奇怪な事件にかかわっていき、自分の前世や本当の姿を知るみたいな感じの内容になっています。

読んでみるなら曲を聴いてから読むと良いかもしれません。



書名：オネーギン 著者名：アレクサンドル・プーシキン

オネーギンは主人公の名前だ。いいところのお坊ちゃんのオネーギンは、ペテルブルグの社交界での優雅なそしてうっとり生活に既に飽き飽きしてしまった。

そんな中、ある日父親が多くの借金を残して死に、ほとんどの財産をもっていかれてしまった。また、ほとんど同時に裕福な地主であるおじも死に、そこでオネーギンはペテルブルグを離れ、おじの残した土地に移り住むことになった。

そして、その移り住んだ場所でレンスキーという男と親しくなる所から物語は始まる。